



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年2月8日

上場会社名 株式会社ソケット 上場取引所 東
コード番号 3634 URL <https://www.sockets.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司
問合せ先責任者(役職名) コーポレートマネジメント室室長 (氏名) 川瀬 尚子 TEL 03-5785-5518
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有 「2024年3月期第3四半期決算説明資料」を同日付けで公表しております。
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の業績 (2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	723	4.5	△82	—	△78	—	△78	—
2023年3月期第3四半期	692	10.4	△70	—	△70	—	△55	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	△32.03	—
2023年3月期第3四半期	△22.70	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	966	—	727	—	71.3	—
2023年3月期	1,037	—	813	—	74.7	—

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 689百万円 2023年3月期 775百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	10.6	0 ~15	—	0 ~15	—	△2 ~12	—	△0.93 ~5.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	2,477,400株	2023年3月期	2,477,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	24,683株	2023年3月期	24,583株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	2,452,738株	2023年3月期3Q	2,452,817株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算説明補足資料はT D n e t で同日開示しています。
- ・当社は2024年2月9日（金）に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、依然とした円安、国際的なインフレ、国内の物価上昇、不安定な国際情勢、地球規模でのエネルギーや環境問題など様々な複合要素の中、経済景況感の一定の改善が見られるものの、家計における景況感との乖離もあり、全体でいえば先行き含め好況とまではいえない状況にありました。

一方で、インバウンドはじめ国内外の観光を含めた人の交流、イベントなどは着実に増加しており、当社を取り巻くエンターテインメント業界やマーケティング業界においても良い風向になってきている面があります。

そのような中で、世界、そして日本においても、会社や個人個人のパーパスへのより本質的な向き合い、実践、連帯が今後ますます重要になってくることが見込まれております。

その変化の中では、経済活動においても、企業やクリエイターと生活者との間における情緒的価値、感性価値を伴う共感を軸とした繋がりは、従来以上に重要な要素となり、当社独自の人の気持ちを繋ぐ感性AI、感性メタデータ活用先、活用方法は広がる社会環境にあります。

当社の既存の主力事業である感性AIを活用したエンターテインメント分野でのデータサービスは、音楽・映像のインターネット配信の需要の広がりを受けて、前年度より着実に成長しております。また感性AI技術の活用先は、エンターテインメント分野以外の美容、健康、ファッション、食、飲料、旅、住、金融など日々の暮らしに関わる領域に広がっており、インターネット媒体での記事・コンテンツのレコメンド(おすすめ)や広告などにおいて利活用が一層進んでおります。

また世界的に個人情報の保護に関する規制が今後より厳しくなる中で、従来は利活用出来ていたクッキー(個人のウェブサイトでの行動履歴)情報が以前のように使用できなくなる状況となります。これらの事業環境においては、履歴・属性情報に依存しない文脈(コンテキスト)を解釈する技術が極めて有効となります。そして、さらに重要なのは、当社技術は文脈(コンテキスト)を解釈するだけでなく、さらにその文脈(コンテキスト)の背景や元にある人の感性や感情的な動機を推測することを可能とする点となります。今後生成AIとの相互補完も積極的に行い、ますますの技術革新やデータ開発の拡張を進めてまいります。

当社の独自感性データ技術は、生活者視点でいえば、自分らしく生きる、社会と共に生きる、自らのライフスタイルを見つけてより良く暮らす、ウェルビーイングともいわれる、そうしたニーズを繋ぎ広げることに可能な技術です。企業視点から見ても、今後、より自社のフィロソフィー、カルチャー、ストーリー、こだわり、期待価値などを丁寧に訴求することで、自社の感性価値、情緒的価値に基づいた共感で繋がる生活者との長期的でより深いコミュニケーションが可能となります。それらの生活者と企業とのエモーショナルな繋がりを創ることににおいて、当社独自の感性AIの有用性があります。

その上で、中期的には、当社の既存主力事業であるエンターテインメント分野と新規事業である感性マーケティング分野を繋ぎ、日本全国の大企業から個人事業者や生産者と生活者とのコミュニケーション活動とエンターテインメントが持つ共感を増幅する力を掛け合わせ、アーティスト、クリエイター、企業、生産者、生活者、それぞれのフィロソフィーやストーリーを繋げる社会の実現に貢献してまいります。

当社の強みは、感性メタデータを活用した独自の感性AIの開発と音楽、映像を中心としたエンターテインメント分野を通じて人間が持つ感性や感情を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行い、国内最大級の感性データベースであるメディアサービスデータベース(以下「MSDB」といいます)として開発、運用しているところにあります。それらのデータ・技術開発を通じて、人間の感性と感情に寄り添う「セレンディピティ=偶然の幸せな出会い」を生む独自のサービスを創ります。

当社は、「データベース・サービスカンパニー」として、創業以来『人の気持ちをつなぐ』というビジョンのもと、コンテンツに紐づく情報をデータベース化したオリジナルのMSDBを開発し、主にインターネットサービス会社を対象に、データ提供、検索機能提供、レコメンド・パーソナライズ機能提供、データ分析などの多様なデータベース関連サービスの開発および提供を行っております。具体的には現在、「音楽データサービス」「映像データサービス」「感性ターゲティング広告サービス」の3事業を展開しております。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、LINEヤフー株式会社、楽天グループ株式会社、LINE MUSIC株式会社、HJホールディングス株式会社(サービス名「Hulu」)、株式会社サイバーエージェント(サービス名「ABEMA」)、株式会社フジテレビジョン(サービス名「FOD」)、株式会社集英社、株式会社世界文化ホールディングス、株式会社CCCメディアハウスなどのサービスにて利用されております。

開発・運用型売上ではなく、技術ライセンス収入主体への事業モデルの転換に向けたデータ・テクノロジーライセンス事業に一段と主力事業がシフトする一方で、研究開発やデータ開発を引き続き、売上の25%を目処に積極的な投資を実行しております。それら事業活動の結果として、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高723,598千円(前年同期比104.5%)、営業損失82,190千円(前年同期は70,317千円の営業損失)、経常損失78,634千円(前年同期は70,113千円の経常損失)、四半期純損失は、78,558千円(前年同期は55,677千円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、966,979千円（前事業年度末比70,402千円減）となりました。

流動資産につきましては865,266千円（同84,103千円減）となり、増減の主な要因としましては、現金及び預金の減少（同20,750千円減）並びに売掛金の減少（同68,967千円減）などがあったことによります。

固定資産につきましては、投資有価証券の取得等により投資その他の資産が増加したことで、101,713千円（同13,701千円増）となりました。

負債は、239,595千円（同15,261千円増）となりました。増減の主な要因としましては、賞与支給による賞与引当金の減少（同21,699千円減）があった一方で、買掛金の増加（同7,295千円増）、未払金の増加（同16,615千円増）、その他流動負債の増加（同11,446千円増）などがあったことによります。

これらの結果、純資産は727,384千円（同85,663千円減）となり、自己資本比率は、前事業年度末の74.7%から71.3%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の個別業績見通しは、以下のとおりであります。直近に公表されている業績予想から修正はありません。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	10.6	0 ～15	—	0 ～15	—	△2 ～12	—	△0.93 ～5.18

(注) %表示は対前年増減比であります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	722,561	701,811
売掛金	199,217	130,250
仕掛品	305	2,595
その他	27,284	30,609
流動資産合計	949,369	865,266
固定資産		
有形固定資産	0	202
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
その他	88,012	101,511
投資その他の資産合計	88,012	101,511
固定資産合計	88,012	101,713
資産合計	1,037,381	966,979
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,095	34,390
未払金	8,541	25,156
未払法人税等	8,301	2,715
賞与引当金	43,202	21,503
その他	40,273	51,719
流動負債合計	127,413	135,485
固定負債		
退職給付引当金	96,921	104,109
固定負債合計	96,921	104,109
負債合計	224,334	239,595
純資産の部		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	204,137	204,137
その他資本剰余金	124,175	89,928
資本剰余金合計	328,312	294,066
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△26,888	△78,558
利益剰余金合計	△26,888	△78,558
自己株式	△32,009	△32,097
株主資本合計	775,151	689,147
新株予約権	37,895	38,237
純資産合計	813,047	727,384
負債純資産合計	1,037,381	966,979

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	692,306	723,598
売上原価	356,480	396,197
売上総利益	335,826	327,401
販売費及び一般管理費	406,143	409,592
営業損失(△)	△70,317	△82,190
営業外収益		
受取利息	10	25
受取配当金	20	3,380
受取手数料	42	42
商標権使用料	90	90
未払配当金除斥益	38	18
その他	24	0
営業外収益合計	226	3,556
営業外費用		
為替差損	13	—
その他	8	—
営業外費用合計	22	—
経常損失(△)	△70,113	△78,634
特別利益		
新株予約権戻入益	16,152	1,793
特別利益合計	16,152	1,793
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純損失(△)	△53,960	△76,840
法人税、住民税及び事業税	1,717	1,717
法人税等合計	1,717	1,717
四半期純損失(△)	△55,677	△78,558

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。